

令和7年度 グランドデザイン 石見養護学校 学校運営方針「みちるべ」より
令和7年度重点目標
① 「対話を通じた学校づくり」(コミュニケーション力・自分と他者を認める力)
◇「健康で安全・安心に生活できる学校」 …… めざす学校の姿
◇「思考し、他者に伝え、共に学び合おうとする児童生徒」 …… めざす児童生徒の姿
◇「組織の一員として共に考え、よりよくしようと行動する教師」 …… めざす教職員の姿
・自立活動を中心に全教育活動、日々の学習の中で、伝えたい思いを育て伝える手段を豊かにする。
・相手に「伝える」「伝わる」を確認し、相手に思いやり、理解しようとする姿勢で対話をする。
・人権意識を高め、お互いを尊重し合いながら、安心して関係性の中で対話ができる教職員集団をめざす。
② 研修による専門性の向上
・OJTにより学び合い高め合う教職員集団をめざし、授業力を高める。
・ICTを授業の中に積極的に取り入れる。

学校教育目標
夢をはぐくみ、未来を生き抜く力を育てる
1 学習に主体的に向かい、あきらめずに最後まで取り組む強い意志と態度を育てる
2 教育活動全体を通じて、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を育てる
3 「ひと・もの・こと」の出会いを通して、思いやりの心や豊かな感性を育てる
令和7年度のキーワードは「発信」と「計画」
・行事等の後はHPへ積極的に掲載する。
・計画的に学習活動を実施する。

担当学部分当分	令和7年度 重点目標	具体的方策(手立て)	令和7年度評価指標 規準	協業部署	評価者	評価方法	中間自己評価	年度末評価					年度末自己評価	重点目標への取組について ○良い点 ○改善点、改善策	重点目標以外への取組について ○良い点 ○改善点、改善策
								1	2	3	4	5			
小中学部	○伝えたい思いを育て、自分から相手に伝える力を養う。	・個々の児童生徒の目指す姿を話し合い、共有する。 ・児童生徒との日々の関わりを大切に止める。児童生徒からの発信を共感的に受け止め、伝わった喜びが感じられるようにする。 ・様々な人やもの、ことと出会ったり、思いを伝えたりできる場を設定する。 ・児童生徒の実態に合わせて、思いを引き出したり、伝え方を知らせたり等の支援をする。	・目指す姿のポイントとなる視点をもって、児童生徒の姿を学期ごとに話し合う。 ★伝え方(方法) ★誰に(相手) ★伝えようとした内容 ★自分から伝えようとした回数(増減)	研究部	教職員	実績	A ●14%	自己人数 8 5 0 0 0 % 62% 38%	全体人数 22 27 0 0 0 % 45% 55%	A ●45%	○年度当初に設定した個々の児童生徒の目標に対し、4つの視点から評価を行い、それぞれの成長を確認できた。 ○日々の丁寧な関わりの中で思いを受け止め、言葉で返すことを大切に結果、児童生徒からの発信が増加した。 ○教員間で児童生徒の姿を日常的に共有し、支援方法についてもその都度検討を重ねることができた。 ○今後も人との関わりを広げるため、計画的に場を設定する。	○学級や学部での活動、休憩時間等で子ども同士が関わる場面が増えてきている。 ○必要な児童生徒については随時ケース会等を実施し、支援について検討・共通理解を図る。			
高等部	○思いを表現したり、他者の意見を聞いたりすることで、考えを深める力をつける。	・各教科・領域等の学習において、①自分で考える→②生徒同士で意見交換する→③考えを深めるという場面を設定する。 ・実習先や進路等、自分自身について決める場面では、個別の場で生徒の考えを聞き、教員が助言を加えながら一緒に考えていく。 ・事業所や地域の方等、学校外の方との出会いの場を設定し、様々な考え方に触れられるようにする。	・教職員アンケートの実施 ★具体的方策(手立て)の実施「できた」 ★生徒の姿・意識の評価「向上した」 80%以上:A 60%以上:B 40%以上:C 39%以下:D ・生徒アンケートの実施 ★生徒の意識・その変容	研究部 進路指導部 総務部	教職員 生徒	アンケート 実績 話し合い	A ●12%	自己人数 8 13 0 0 0 % 38% 62%	全体人数 17 30 2 0 0 % 35% 61% 4%	A ●35%	○90%以上の教職員が、日々の授業や関わりで手立てを意識し、場の設定や支援方法を工夫して取り組めた。 ○行事や実習報告会では、自己の考えを積極的に表現できた。発表準備や面談を通じ、他者の意見を聞いて提案したり、助言を取り入れ進路選択したりする姿が見られた。 ○「他者の意見を聞いて考えた」の項目で「できた」と回答する生徒が増加した。 ○考えを言語化する力や他者の意見を受け入れる力は、今後も多様な場面を通じて継続的に伸長を図る。	○生徒対応については、今後も、学級・学年、教科担当等で日常的に情報交換・相談を行うことを大切に、その内容について学部で共有していく。 ○その上で、必要に応じてケース会を実施し、上での理解と支援方法、学部内の役割分担と指導体制について検討する。			
舎務部	○自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを聞いたりする機会を増やす。	・指導員と話を時間を定期的に設定する。 ・舎生同士で、お互いの話を聞く場を設定する。	・おはなしタイムの実施 ★学期に2回 ★生徒の変容 ★学年会、指導員会での情報共有	高等部	指導員	実績 話し合い	A ●22%	自己人数 5 6 0 1 0 % 42% 50% 8%	全体人数 22 26 0 1 0 % 45% 53% 2%	A ●45%	○おはなしタイムを学期に2回ずつ実施し、いろいろな舎生と関わりながら思いを聞くことができた。 ○話し合い活動では、自分の考えを伝えたり周りの意見を聞いたりする姿が多く見られた。 ○今後もおはなしタイムを継続していく中で、出た意見をどう集約するか全体で検討していく。	○今年度から学年担当にしたことで高等部とも連絡が取りやすくなり、情報共有が図れた。 ○舎生の意見を聞きながら話し合いを重ね、行事の計画やスマホ使用のルールを見直すことができた。			
人権教育	○人権意識を高め、お互いを尊重し合いながら、安心して関係性の中で対話ができる教職員集団を目指す。	・教職員に対して「人権意識に関するアンケート」を実施し、アンケート結果をもとに、教職員研修会を年間3回実施。 ・各学部、寄宿舎において、教職員向けの「人権標語」などを作成。	・人権意識に関するアンケート結果での気づきや教職員研修会での学び、人権標語などでの意識づきをおとして、日頃の人権意識を高めることができたか。 ★人権意識を高めることができた人数が85%以上	小中学部 高等部 寄宿舎	教職員	アンケート	A ●14%	自己人数 18 30 1 0 0 % 37% 61% 2%	全体人数 36 61 2 0 0 % 37% 61% 2%	A ●37%	○人権標語や人権教育ミニ研修会などをとおして、全員が日常的に自分ごととして意識できるような工夫がされており、人権意識を高めることに生かされている。	○チャット「人権標語の部屋」での発信を通じ、先先生の魅力的な人権への意識、現在の取り組みを再確認することができた。 ○本校の教職員は、子どもたちの人権に配慮した対応ができてきていると感じる。			
総務部	○地域の資源「ひと・もの・こと」や地域と連携した取組についての情報発信を行い、地域と連携協働した学習の推進を図る。	・地域の「ひと・もの・こと」の情報発信(おとなの〇〇)を作成・発信する。 ・地域と連携協働した取組について情報発信する。	・「おとなの〇〇」発行 ★6月から2回程度 ・地域と連携協働した取組の情報発信【校内】年間計画作成・配布、各取組状況等や取組のWeb掲載をチャットで発信 ★随時 【校外】Web掲載を計画的(各取組ごとに声をかける)に実施 ★随時	小中学部 高等部 教務 地域連携Co.	教職員	実績	A ●37%	自己人数 5 3 0 0 0 % 63% 37%	全体人数 36 13 0 0 0 % 73% 27%	A ●73%	○地域資源の情報発信が継続してきた。おとなの〇〇だけでなくモノ・コトも発行し、夏季休業中には邑南町体験を2コース実施した。また、地域連携CDと協力し、学習ニーズに応じた情報提供も行った。 ○地域と連携した取組を、年間計画に沿ってWebサイトで迅速に発信できた。校長室前の掲示「おとなの〇〇」は、来校者等へ本校の地域連携を伝える手段として好評を得ている。地域連携担当者や各媒体を通じ、校内でも活動の進捗や各学級の取組の共有が進んだ。	特になし			
教務部	○安心して利用できる図書館の運営に努める。	・「library」や廊下の掲示、Web掲載等で、図書館に関する発信に努める。 ・幅広い興味関心に応じた内容のトショットモを開催し、図書館(本)に親しむ機会をつくる。 ・季節の本や〇〇の週間に合わせた図書等の展示コーナーの充実を図る。	・トショットモを開催する。 ★年5回 ★様子を「library」やWeb掲載で紹介する。 ★参加生徒の感想 ★学級文庫の希望アンケート結果を反映する。 ★学期1回 ★新しい購入本 ★児童生徒の希望アンケートを反映	総務部 小中学部 高等部	教職員 児童生徒	実績	A ●22%	自己人数 4 2 0 0 0 % 67% 33%	全体人数 29 19 1 0 0 % 59% 39% 2%	A ●59%	○定期的な「トショットモ」の開催により、図書館が児童生徒にとって楽しみイベントの場や安心して読める居場所となり、運営の充実につながった。 ○展示やWebでの情報発信に努めるとともに、購入本や学級文庫に児童生徒の希望を反映した。 ○学級文庫の入れ替え時に生徒自身が棚を返却する仕組みは、来館者と本を知る好機となるため、今後も継続して活用を図る。	○年度初めに学習室の備品状況を調査し、卒業生分を転用するなど体格に適した環境を整備する。更新が必要な備品は事務局と連携し、予算に基づき長期計画を策定。破損等は安全点検で早期に把握し、速やかに修理・撤去を行う。 ○道徳教育を計画的に実施するため、年間計画の新様式などを提案・作成していく。			
子ども支援部	○対話を通じた安全・安心に生活できる学校づくりに参画し、相手に尊重し合う自分の気持ちを伝えたりする力を身につける。	・生徒心得の見直しを生徒会を中心に全校で行う。 ・アンケート(児童生徒、保護者、教員向け)の実施をし、多様な意見を取り入れられるようにする。 ・新しい生徒心得を、プレゼン資料を作り伝える場面を作る。	・新しい生徒心得を児童生徒代表から提案をする。 ★年間1回 ★アンケート(児童生徒)による評価 ★肯定的評価80%	小中学部 高等部	教職員 児童生徒	アンケート 実績	B ●12%	自己人数 3 7 0 0 0 % 30% 70%	全体人数 15 30 4 0 0 % 31% 61% 8%	A ●31%	○生徒心得の見直しを教職員研修の議題とし、共通理解を深める機会を創出した。また、生徒との対話を重視したプロセスを継続できた。 ○丁寧な合意形成を優先したため、年度末評価の一部が未達成となった。年度内の未達を目指し、アンケート等を実施する。 ○今期の反省を踏まえ、次年度に向けた見直しの手順を検討し、明文化を図る。	特になし			
進路指導部	○生徒や保護者、担任のニーズを把握し、ニーズや個のケースに応じた適切な進路情報提供に努める。	【生徒】 ・進路掲示板を活用し、必要な情報を提示する。 ・高生を対面にみらいカフェを実施する。 【保護者】 ・みらいカフェの年間計画を作成し、Web掲載や進路だよりで案内を出したり、参加しやすい時間や日にちを設定したりする。また、様子や話題に挙がった内容等をWeb掲載や進路だよりで発信する。 【担任】 ・アンケートを取り、関心のある情報をミニ進路情報研修で情報提供する。	・進路掲示板 ★月1回更新 ・みらいカフェ ★計画に沿って実施・案内 ★邑相連との連携 ★進路だより・Web掲載での発信 ★参加延べ数増 ・進路研修 ★学期に1回程度実施	総務部 小中学部 高等部	教職員	実績	A ●25%	自己人数 2 2 0 0 0 % 50% 50%	全体人数 21 28 0 0 0 % 43% 57%	A ●43%	○みらいカフェの充実、授業公開日に合わせた設定により、多くの保護者が参加した。高等部職業科、保護者版では、邑相連の方を交えて将来の生活について語り合う貴重な機会となった。その内容は「進路だより」を通じて情報提供した。 ○現場実習や研修の前には、進路掲示板を活用し、「働く力」の育成に必要な情報や他者からの好評価を提示し、生徒への意識付けを行った。 ○アンケートにより教職員のニーズを把握できた。今後も「進路だより」や「進路ミニ研修」を通じ、継続的な情報提供に努めていく。	特になし			
研究部	○児童生徒の学びの充実を図るために校内研究を推進し、教職員の専門性及び授業力の向上に努める。	・グループで校内研究を推進し、公開授業ビデオ撮影・上映を通して、研究協議が行えるようにする。 ・夏季研修会として地域に関する研修を設定する。 ・研修案内パネルとチャットによる研修案内、研究図書の見直し・注文を行う。	・研究グループ会の設定・実施 ★月1回程度 ・地域に関する夏季校内研修の実施 ★1回以上 ・研修案内、研究図書の見直し・注文 ★随時	小中学部 高等部 寄宿舎	教職員	実績	A ●20%	自己人数 3 1 0 0 0 % 75% 25%	全体人数 20 27 2 0 0 % 41% 55% 4%	A ●41%	○昨年度の課題を踏まえ、授業前に授業ビデオを上映する工夫により、参加者増に繋がることができた。 ○部活動や他会議との重複により参加者が減る場面もあったため、今後は日程設定の調整に配慮する。 ○地域に関する研修を年間2回計画通り実施できた。 ○研修案内パネルの設置に加え、チャットによる研修案内を行うことができた。	特になし			
保健部	○健康で安全・安心に学校生活を送ることができるよう、事故等の未然防止に関する啓発や環境衛生管理等を通して、適切な環境の維持及び危機管理に対する意識を高める。	・定期的な安全点検を実施し、事務局と連携して安全な環境の整備に努める。 ・ヒヤリハットの報告を活用して、危険な事象等に対して速やかに再発防止策を検討し、教職員間で情報共有を図る。 ・環境衛生検査を充実させ、学校薬剤師の指導を仰ぎ快適な学校環境を維持するように努める。 ・児童生徒への安全に関する保健教育等の実施・啓発に努める。	・安全点検の実施 ★年4回実施 ★ヒヤリハットの報告 ★随時 ・環境衛生検査 ★毎学期定期(4種の検査)、日常検査 ★上記について、教職員や児童生徒への情報提供及び 保健教育等における啓発 ★随時	総務部 子ども支援部 小中学部 高等部 寄宿舎 事務局	教職員	実績	A ●20%	自己人数 0 3 0 0 0 % 100%	全体人数 19 30 0 0 0 % 39% 61%	A ●39%	○安全点検で危険箇所を把握し、事務局との迅速な連携により修繕を進め、生徒、教職員の安全な環境維持に努めた。 ○ヒヤリハットのリスク共有と即時報告を徹底し、チャットで対応策の迅速な周知を図った。今後も継続的な活用により危機意識を共有する。 ○水質、AED点検や学校薬剤師による検査を適切に実施し、衛生基準を維持した。 ○検査結果や薬剤師からの助言については、今後チャット等で周知する。	○年々熱中症の危険が高まっているのを早めに研修を行い、予防や対応について教職員間で共通理解を図り、安全な学校生活が送れるようにしていきたい。			
事務室	○安全・安心な教育環境や教職員にとって働きやすい職場の整備・改善を促進する。	・定期検査や日常の確認、教職員の要望を受け、必要性の高いところから施設の修繕等を行い、労働環境の改善に努める。	・学校運営の評価アンケート ★肯定的評価80%以上	小中学部 高等部	教職員	アンケート	A ●37%	自己人数 1 2 0 0 0 % 33% 67%	全体人数 28 20 1 0 0 % 57% 41% 2%	A ●57%	○教職員の要望を受け、施設の修繕等を行い、労働環境の改善に努めた。(修繕箇所) 職員室ドア及びブラインド、窓の制御盤、水道管、寄宿舎風呂の排水口、環境整備 数地内の除草、除雪 ○予算の制約はあるが、引き続き労働環境の改善に努める。	特になし			

学校運営全般	○方針決定の際、職員間の対話を通じて納得感のある合意形成がなされており、満足度が向上している。 ○学部を越えた協働体制が機能している。 ○職場全体に「対話を大切にしようとする姿勢」が根付いており、和やかに風通しの良い雰囲気がある。 ○各学部、学年単位で、地域社会と連携した教育活動が具体的に実践されている。 ○教職員、児童生徒、保護者の三者が思いを伝え合うことで、良好な信頼関係が築かれている。	○行事の過密化、一つ一つの行事は成功しているが、年間を通じたスケジュールが過密で、生徒の余裕を奪っていないか。(単体イベントの評価「良かった」に満足してしまい、全体としての児童生徒の負担感を見落としている可能性がある) ○教育活動の精選、生徒の「心の余裕」を確保するため、行事の総量規制や優先順位の再検討が必要である。 ○継続的な対話の質を維持、現在の良好な対話文化を維持しつつ、それを「業務負担の軽減」や「効率化」に向けた具体的な議論へとつなげていく。
--------	---	---

評価基準	自己評価
1:よくできている	A:【よくできている】肯定的評価が90%
2:できている	B:【できている】肯定的評価が70%以上90%未満
3:どちらでもない	C:【やや不十分】肯定的評価が50%以上70%未満
4:やや不十分	D:【不十分】肯定的評価が50%未満
5:不十分	